

MDGs フォローアップ会合 本会合2 伴野外務副大臣発言  
平成 23 年 6 月 3 日

本日まで二日間に亘り、世界の知識、グッド・プラクティスをここ東京に結集させ、知識の中から洗練された英知を生み出す熱のこもった議論が行われました。

保健分野では、母子保健分野の処方箋について重要な提案があり、また、保健システムの重要性について、2015 年以降も視野に入れつつ、議論を深めました。

教育分野では、教育の質の向上と衡平性の確保を如何に担保するかにつき、活発な意見が交わされ、効果的な取組の具体例が共有されました。

さらに、持続的で、包含的で、衡平な経済成長は、社会セクターの様々な分野の進捗にとって不可欠であることも、明らかになりました。

いずれの議論においても、人間一人ひとりを中心に据え、不平等を解消していく重要性、すなわち、人間の安全保障と衡平性の必要性について認識が共有されました。今回皆様が持ち寄った英知は、「議長ステートメント」という形で結晶化しています。

今後の道のりを照らす灯火として、こうした成果を本年 9 月の国連総会の場で共有したいと思います。また、第四回援助効果向上に関するハイレベル・フォーラム、G20、リオ+20 のような様々なフォーラムにも、今回の議論を反映していく重要性を強調したいと思います。

MDGs への揺るぎないコミットを示し、東日本大震災を乗り越えて、このような国際会議を開催した我が国は、本日皆様に、お伝えしたいことがあります。

日本は、「菅コミットメント」の着実な実施を通して、2015 年までの MDGs 達成に引き続き貢献してまいります。

今日までの進展を可能にした英知や創造力を活かしながら、より良い世界を求めるあくなき努力を継続していきます。

そして、現行の MDGs を基礎としながら、2015 年以降の世界を如何にデザインしていくのかという重要な課題にも、我が国は率先して挑みます。

貧困削減は 2015 年以降も追求すべき重要な課題です。その一方で、すべての関係者が、環境・気候変動、食料安全保障を含む資源安全保障、そして災害予防のような新たな課題にも挑まねばなりません。

その際、人間の安全保障、衡平性、相互扶助、持続可能性といった概念が、進むべき道を示し、我々を導く灯台の役割を果たすでしょう。

また、「富の創出」の視点なくして、地球規模課題の解決はあり得ません。「グリーン」、「包括的」、「共有された」という三つの視点で織りなす経済成長が、人々の豊かな暮らしのための礎となることを、忘れてはなりません。

これらの点を含め、2015年以降も、我々が開発に関する「国際社会の羅針盤」を持つことができるよう、志ある皆様とともに議論を深めていく決意をここに表明します。

本日のような国際会議の終わりには、達成感や安堵感が得られると同時に、未来に向けた課題も明確になります。本会合を通じて共有された新たな決意や高い志をもって、共に手をつなぎ、共に歩んでいきましょう。

震災という試練を経て、私たちは、先進国、新興国、途上国、政府、企業、市民社会といった立場を超えた、同じ人間としての温かさに触れることができました。地球規模課題を解決するための希望の光は、人類の連帯です。その重みを最も感じた者の一人として、連帯がもたらす無限の可能性を、この会合の最後に、強調したいと思います。

MDGs 達成への努力、そして2015年以降の課題解決においても、我が国は常に国際社会の皆様と共にあることをお約束し、締めくくりの言葉とさせていただきます。

御清聴ありがとうございました。

(了)